

## H26年6月1日 金沢エルデの会セミナーアンケートのまとめ

(於) 教育プラザ富樫 参加者数 43 名 (うち学生 7 名) 回収数 32

・私は以前保育士として勤務した経験があります。その時、今考えると発達障害を疑う子どもというのが何人かいます。当時はその子らしさという見方で日々を過ごしていました。しかし、就学して問題が起きる子も中にはいました。私は自分の子どもへの見方を反省しましたが、その子が楽しく過ごせていたとするならば、それはそれでその子の長い人生の一コマになるのだろうかと思います。しかし保育者としては個性として捉えるだけでなく、発達といった視点で見た時どうなのかを、広い視点でみていかなければいけないと強く思いました。貴重なお話をありがとうございました。(学生)

・苦手な事は小さいころから変わらないことを痛感しました。しかし、その子が大事にしているものからさぐっていく大切さを学びました。ありがとうございました。(当事者の母親)

・目の前のことでいっぱいいっぱいであったけど、成長を縦軸でみていくことを心がけていきたい。今、この子にとって何が必要か考えていきたい。ありがとうございました。(当事者の姉)

・私がゼミで研究で対象としている子どもと比べながら聞いたりして、学べることが沢山ありました。ますます自閉症の子どもに興味を持ちました。またぜひ聞かせて下さい。行きたいです。(学生)

・Aさんの話は以前K幼稚園で行われた活動で伺った事があったのですが、2回聞いて初めて納得できたこと、というか、上手に(深く?)受け止める事ができた部分がありました。(聞き手、私の受け止め方が下手なせいです。話し手のせいではありません)Bさんの話も同じような事を感じました。話を聞く環境や私の体調なども、また、私の成長具合も関係あるのでしょうか。(幼稚園)

・色々なお話が聞けて、勉強になりました。(療育機関)

・改めて、目先のことにとらわれてはいけないな、と思いました。自分の常識を打ち破り、本人にとってよければ「何でもあり」。親ができるのは結局応援して下さる人を増やすことだけなのかな?(保護者)

・我が子がアスペですが、エルデの方のお話の中に、結構共通点があるなと感じました。特に幼少期の育てにくさが似ています。我が子より年上の方の女の子のお話から仕事の大変さが参考になりました。(保護者)

・兄がアスペルガーということがきっかけで、今卒業論文で「自閉症スペクトラム患者とその家族のかかわり」をテーマに調査しています。その調べる中で、今回のセミナーことを知り参加しました。当事

者の家族としても、また、教員を目指している立場からしても、今回のセミナーでたくさんのことを考える事ができました。考えている中で、上手く言い表せませんが、苦しくもなりました。とにかく、当事者とその家族が悩みながらも笑うことができればと、単純かもしれませんが思っています。貴重な経験談をありがとうございました。(当事者の妹、学生)

・子どものエピソードをずっと追っていくと見えてくるものがたくさんありますね。その子の大切にしているもの、特性(つよみ)などを知って関わっていけたら、その子も支援する側もとても充実した人生を送っていけるように感じました。いろいろ問題はあると思いますが、いろんなネットワークがある事も心強いですし、何とかなるさと心広く構えられそうです。その意味でもエルデの組織の役割は大きいですね。(中学生の保護者)

・2名の方のお子さんの誕生から現在に至るまでの成長の過程を話していただき、とても勉強になりました。長い目で見ると、その時、その時のいろいろなことも、すべて成長していく一つの段階なのだという気がします。(高校関係者)

・生まれてから今までの時系列で、その人の困りごと、出来事がとらえられて、目の前にあることが全てではなく、ずっと前のこともつながっているのだと感じる事ができました!(幼稚園関係者)

・発達障害の子とかかわるとどうしてもその子の抱える問題部分にばかり目が行きがちだけど、日々表しているその子の特性をみることができるのが一つ支援のポイントになるのかなあと感じました。お母さん方は現場が知らない所でたくさん苦勞をしていることもよく分かりました。(学生)

・初めての参加でしたが詳細な事例をお聞きすることができて勉強になりました。  
・今日はありがとうございました。心に残ったことは多々ありましたが、最後の山口さんの「日々悩みながら成長の縦軸を見ていく」というご挨拶が一人の親として印象に残りました。(中学校関係者)

・お子さんの成長の過程をお聞きして、たくさんのことを学ばせていただきました。その時その時の困っている事への対応は難しいこともありますが、お子さんの成長を保護者の方と一緒に見ていきたいと思えます。ありがとうございました。(特別支援学校関係者)

・保護者の立場から、点ではなく線(縦軸)でみた(振り返り)は、一言一言が大変身に沁みる言葉でした。通級教室を担当しながら、毎日の関わりをしっかりとみつめ直してみる機会となりました。ありがとうございました。(小学校関係者)

・発達障害の子を持つ親です。障害が分かって認めてはいますが、まだまだ認められていないこともあり、子どもに対して良くなると思って、いろいろな無理なこともやらせてしまっているかもしれません。一番に、根底にあるつまずきを見て、尊重してあげなくては・・・と反省しました。赤ちゃんのころからずっとずっと見てきた我が子。一番理解してあげなくてはならないのに、近頃怒ってばかりでどうに

かしなくては、と思っていたところでした。成長の先にどんな姿が見えるだろう・・・子どもの大切にしている事って何??見方を変える努力をしたいと思います。今日はとても良いお話を聞けたと思います。ありがとうございました。(保護者)

・今日はありがとうございました。お二人の貴重な例を上げていただき、学ぶことができました。自分も将来を見据えたいと考えていますが、具体例を聞くとまだまだ本当に配慮や支援ができていますか?と考えさせられました。今、自分の立場で出来ることを一つずつ行っていこうと思いました。(小学校関係者)

・ありがとうございました。高校の現場ですので本日の話しの様な事を知るとするのは難しいですが、これから保護者、本人から、縦の成長を知る事でもっと多くを支援、意識していきたいと思います。(高校関係者)

・子供と関わらせてもらっている自分たちのことは、考えは、すごく保護者の方の中に残っていることに気づきました。話を聞かせてもらう中で、こちらの考えではなく、保護者の方の思いや考えを聞いていきたいと思いました。分かっている、感じているけれど言えない子がいることを念頭に置いて、子どもたちの姿を見ていきたいと思いました。ありがとうございました。(保育関係者)

・二人の保護者の方が、例え「今にしたら思い当たる」であっても、子どもさんのことをよく理解していらっしゃると感じました。今後も当事者だからわかることを同じ立場の家族に伝えていってもらいたいと思いました。今日は本当に勉強になりました。ありがとうございました。

・お二人の保護者の方から、たいへん貴重なお話を聞くことができ、とても有り難かったです。ありがとうございました。

・本人(中2)は、学校(のような)集団、人混み、たくさんの人の中にいるのはストレスなので出たがらないのですが、将来に向け、人とつながっている人脈が大事ななあ、と思うので、せめて親が一步を踏み出さないとなあ、と思いました。(保護者)

・読み書き障害のある子に対して、苦手な部分をどのくらい学習させるのか、ほどほど、適度とはどのくらいのことなのか、いつも迷っています。勉強になりました。ありがとうございました。(特別支援学校関係者)

・“縦軸に見る”という視点を持つことの大切さを感じていながら、なかなかこれだけまとめてお聴きする機会がなかったので、とても貴重なお話が聴けてよかったです。お二人のお母様の思いもたくさん話して頂いて勉強になりました。ありがとうございました。

・大学で自閉症関連事業に関与(専門家ではない)事例として参考になった。(大学関係者)

- ・セミナーで就労につながった話があったら聞きたいです。(保護者：母親)
- ・ちょうど発達障害の子どもが小6で思春期に入った頃なのでとても勉強になりました。(保護者)
- ・病院での支援は長くても小学校までなので、それ以降に子どもの様子が二事例を通して理解できた。病院での支援で何ができるのかを考えさせられます。(医療関係者)
- ・Aさんの成人期のエピソード、とても心に残りました。身近に発達障害と思われる人のことを思い、とても考えさせられました。(児童館関係者)
- ・発達障害が取り上げられ始めたころ、「縦の連携が弱いと思う」と言われた講師がいました。自分自身が関わらせて頂く時期は、その方、ご家族にとってのある時期のみです。その後どうしているのかな・・・と思う事はあっても詳細を知ることは難しいことが多いと思います。先を見通しながら「今」をどうするか。ご本人、ご家族の意志、意向の尊重を大切にしていきたい。

掲載内容で取り消しを求められる方がいらっしゃいましたら  
金沢エルデの会・事務局 [office@elde.kanazawa.tv](mailto:office@elde.kanazawa.tv)まで  
ご連絡ください。